

既婚者が受ける親からの援助に関する
マーケティングデータ

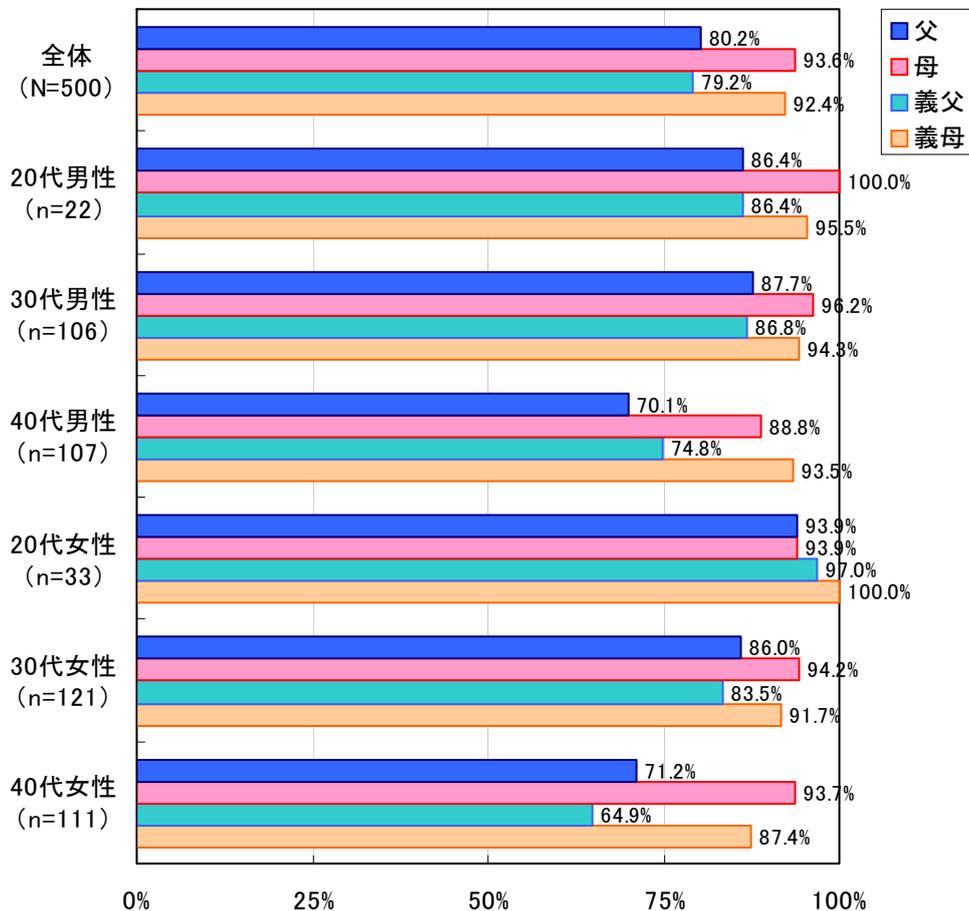
～援助を受けているモノと、援助額編～

調査概要

- 調査方法 Webアンケート
- 調査期間 2009年7月31日（金）～8月4日（火）
- 調査対象 首都圏在住の20歳～49歳の既婚男女で下記の条件にあてはまる人
 - ・自分の父か母、または配偶者の父か母のいずれかが存命である
 - ・自分、あるいは配偶者のどちらの親とも別家計である
- 有効回答 合計500名
 首都圏の20～49歳既婚者の人口比に沿うように
 各サンプルを割付けた（平成17年国勢調査より）

年代	男性	女性	合計
20代	22名	33名	55名
30代	106名	121名	227名
40代	107名	111名	218名
合計	235名	265名	500名

参考：性年代別 父母(義父母)の存命率



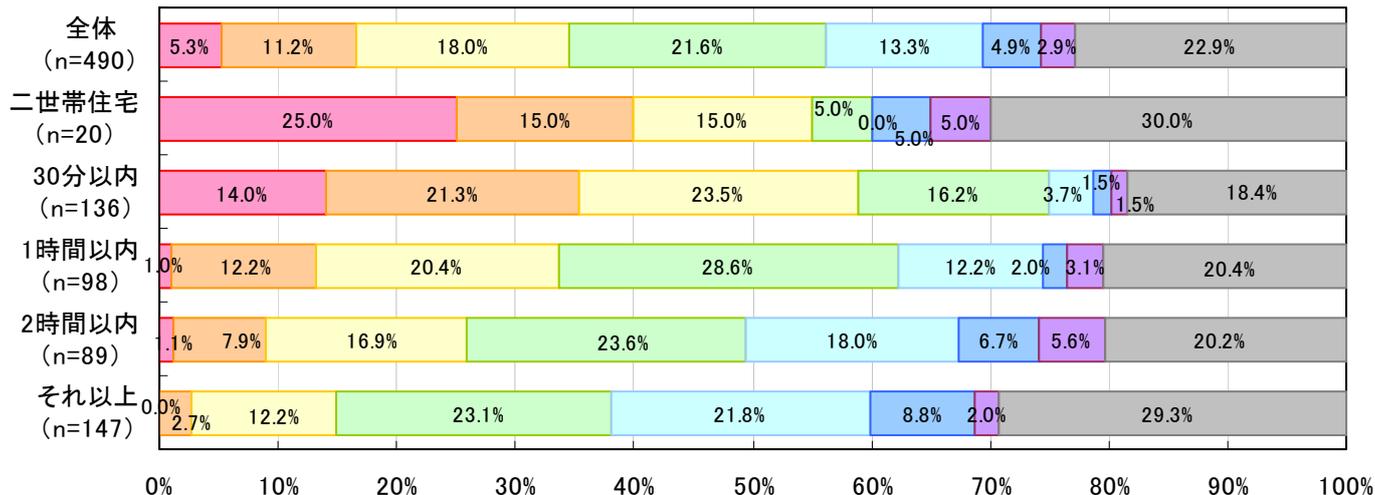
1. 親から日用品・食料品をもらう頻度

全体の34.5%は自分の親から月1回以上、日用品・食料品をもらっている。親の家に行った帰りに持ち帰るパターンが多い。

- 自分の親から日用品・食料品をもらう頻度を、自分の実家までの距離別に見ると、全体としては「もらうことはない(22.9%)」が最も多く、次いで「3ヶ月に1回程度(21.6%)」「月1回程度(18.0%)」となっている。「月1回程度」以上もらう割合は34.5%である。また、実家からの距離が近くなるほど、頻繁に日用品や食料品をもらっていることがわかる。
- 「年1回程度」以上もらっている人のもらい方を見ると、「親の家に行った時に持って帰ってくる(56.9%)」が多数派である。実家までの距離が1時間以内であれば、「親が直接持ってきてくれる」の割合も比較的高い。
- もらっている日用品・食料品の自由回答では、「お米」「野菜」「果物」「お菓子」「お惣菜」といった食料品が目立つ。
- なお、本レポートには示していないが、配偶者の親からもらう場合も上記と同様の結果になっている。

自分の親から日用品・食料品をもらう頻度(自分の実家までの距離別)

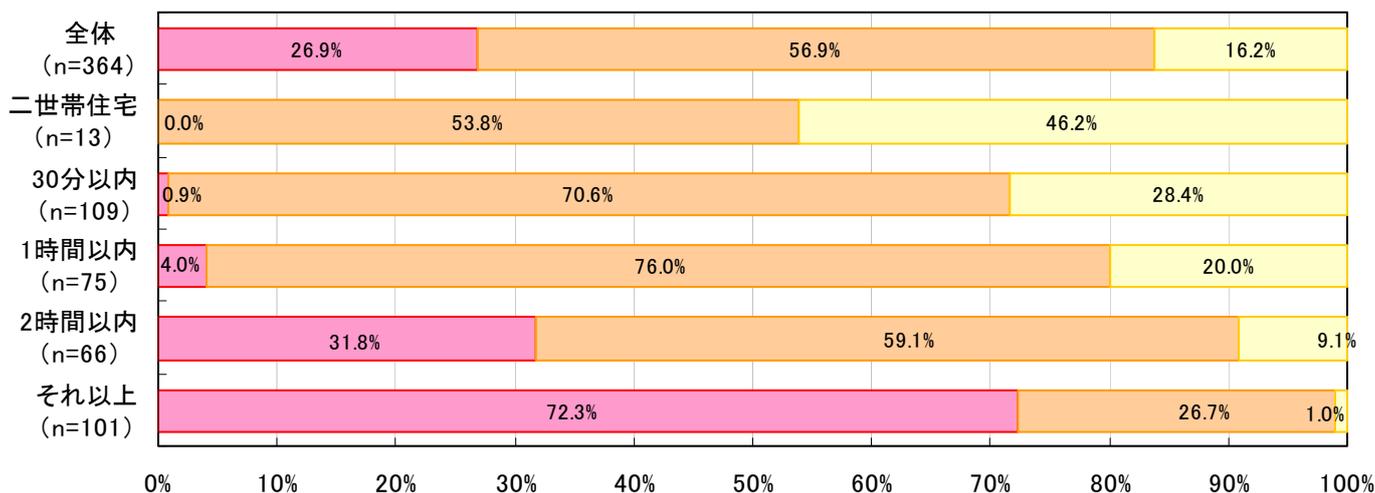
■ 週1回以上 ■ 月2~3回程度 ■ 月1回程度 ■ 3ヶ月に1回程度 ■ 半年に1回程度 ■ 年に1回程度 ■ それ未満 ■ もらうことはない



自分の親から日用品・食料品をもらう場合のもらい方(自分の実家までの距離別)

※「年1回程度」以上もらっている人に限定

■ 宅配便などで送ってもらう ■ 親の家に行った時に持って帰ってくる ■ 親が直接持ってきてくれる



もらっている日用品・食料品(自由回答より)

- お米
- 麺類
- お菓子、ケーキ
- 肉類、ハム
- 親が釣った魚
- 野菜(家庭菜園)
- 調理油、調味料
- 惣菜、余りもの
- お茶
- ビール
- ヨーグルト
- 漬物
- 果物
- ティッシュ
- 洗剤
- シャンプー
- 歯磨き粉
- 旅行のお土産

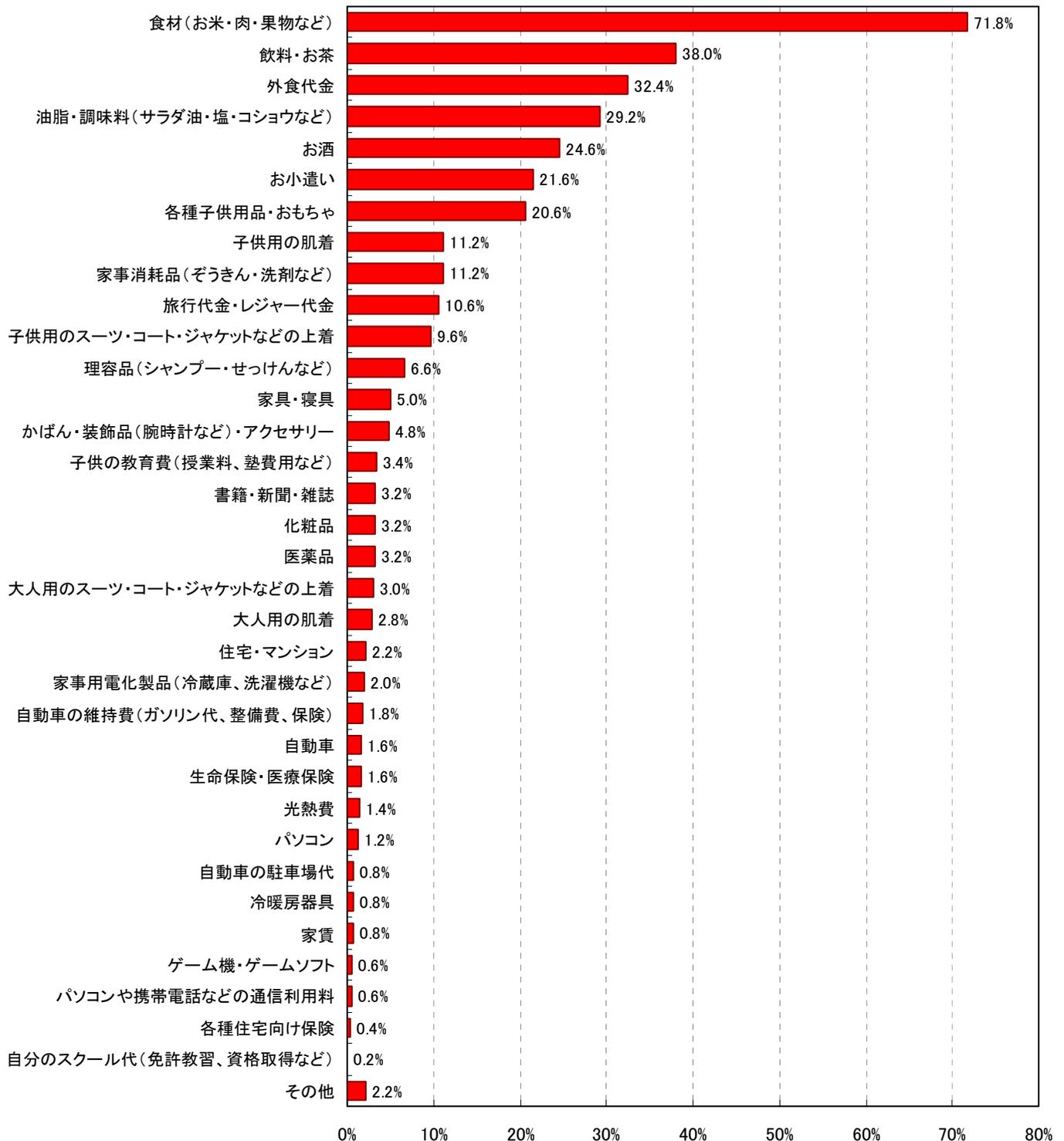
2. 最近1年間に親に購入してもらったり、援助を受けた商品やサービス

食材が71.8%と最多。21.6%が「お小遣い」をもらっている。食品関係のほか、子供用品(孫世代対象)を受け取る場合も多い。

- 最近一年間に親に購入してもらったり、援助を受けた商品やサービスを見ると、上位から「食材(71.8%)」「飲料・お茶(38.0%)」「外食代金(32.4%)」「油脂・調味料(29.2%)」「お酒(24.6%)」と、食品関係の多さが目立つ。
- 「外食代金(32.4%)」「お小遣い(21.6%)」「旅行代金・レジャー代金(10.6%)」といったちょっとした金銭的援助も少なからず受けていることがわかる。
- 「各種子供用品・おもちゃ(20.6%)」「子供用の肌着(11.2%)」「子供用のスーツ・コート・ジャケットなどの上着(9.6%)」といった孫に対する項目も比較的上位にきている。

最近一年間に親に購入してもらったり、援助を受けた商品やサービス

N=500



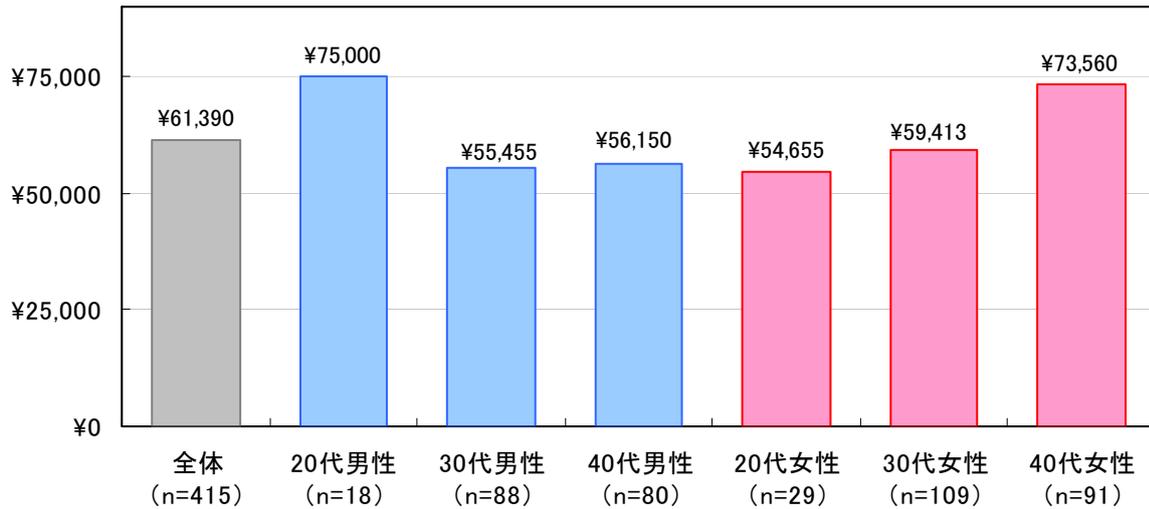
3. 親からの援助への依存①(最近1年間の援助の金額換算、生活への役立ち度)

親からの贈り物・援助を金額換算すると61,390円相当。若いほど、親の援助に依存した生活をしている。

- 最近1年間に親から受けた贈り物や援助の金額換算を見ると、性年代によってばらつきはあるが、概ね年間6万円(1ヶ月あたり5千円)程度の援助を最近1年間に受けたことがわかる。
- そうした贈り物や援助が、生活にどれだけ役に立っているかを見ると、全体では「ないと生活に困る(7.0%)」「とても生活の役に立っている(48.0%)」と、贈り物や援助を受けた人の55.0%が大いに役立っているとしている。
- 生活にどれだけ役に立っているかの評価では、若いほど「ないと生活に困る」「とても生活の役に立っている」の割合が高く、親からの贈り物や援助に依存した生活をしている傾向がわかる。

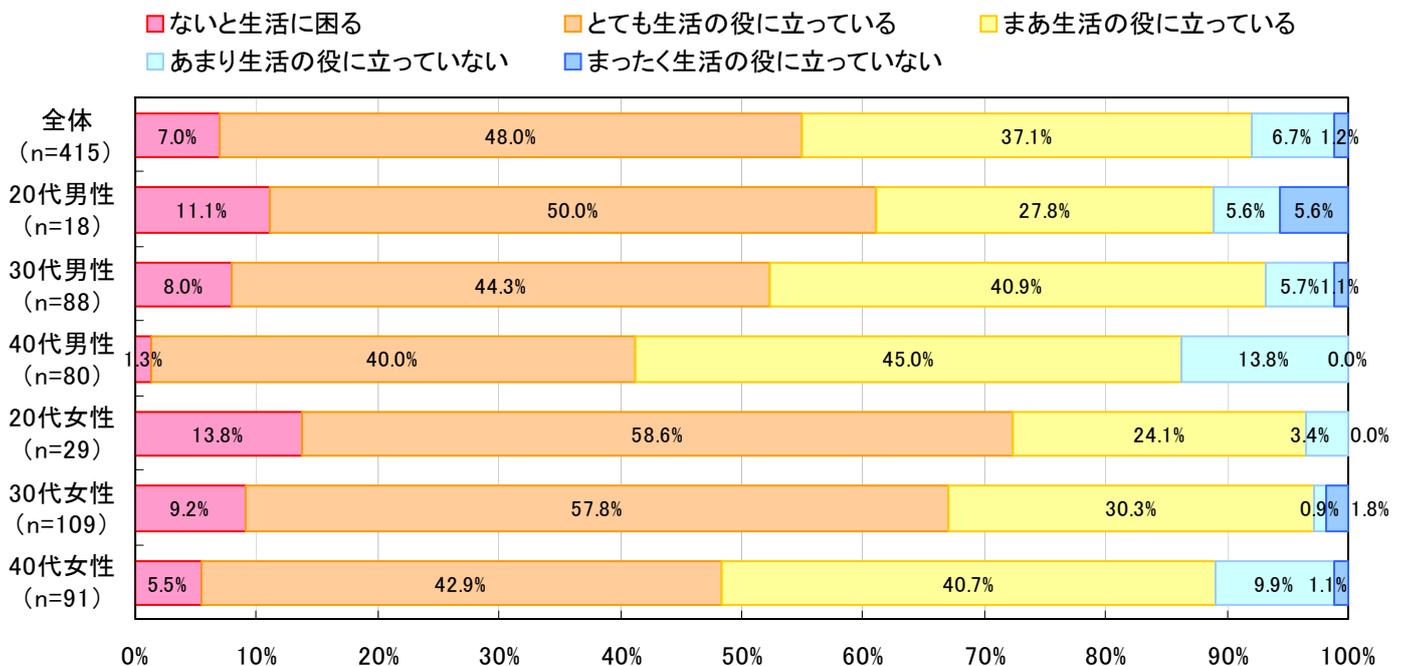
最近1年間に親から受けた贈り物や援助の金額換算(性年代別)

※援助の金額換算が「0」となるサンプルと外れ値を除外している



親から受けた贈り物や援助が、生活にどれだけ役に立っているか(性年代別)

※援助の金額換算が「0」となるサンプルと外れ値を除外している



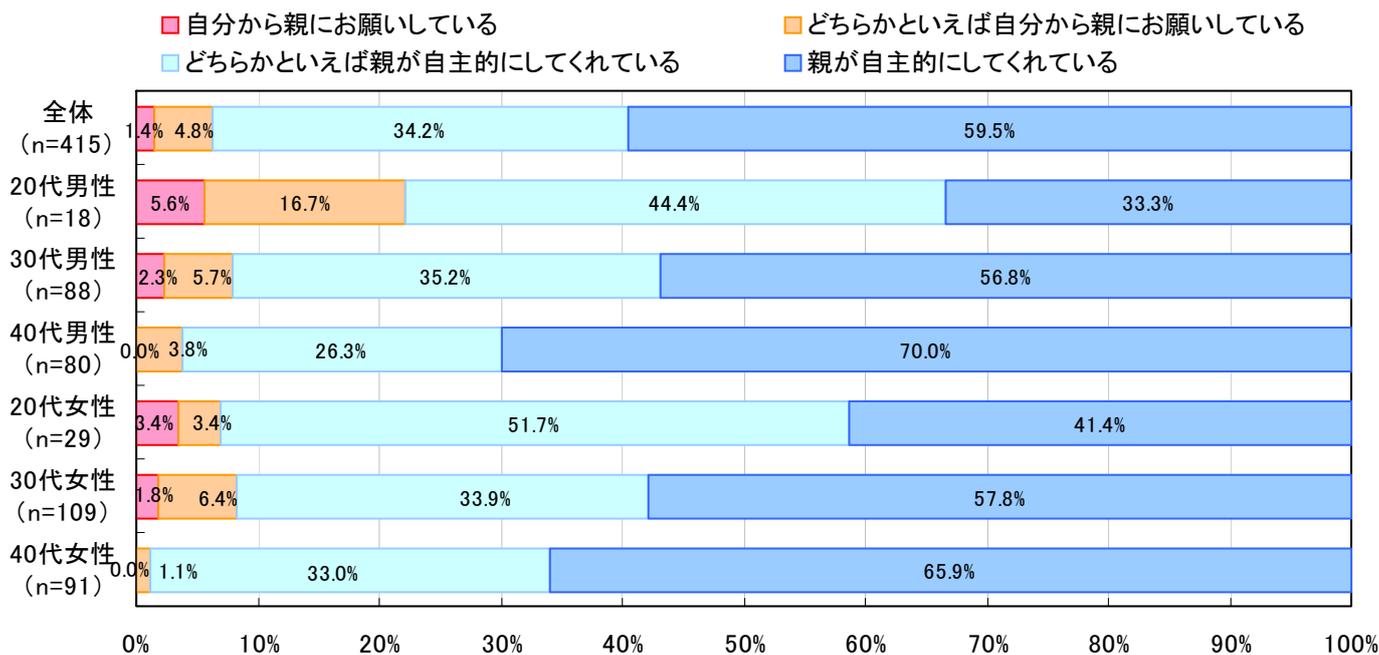
4. 親からの援助への依存②(親の自主的な援助、実家近辺への引越経験)

自主的に子供に贈り物をしたり援助している親。妊娠や出産を機に実家の近くに引越す場合は、妻側の実家近くが多い。

■親から受けた贈り物や援助は、自分から親にお願いしたものかを見ると、全体では「親が自主的にしてくれている(59.5%)」「どちらかといえば親が自主的にしてくれている(34.2%)」と、親の方から自主的に贈り物や援助をしている様子がわかる。とくに40代では顕著である。
 ■妊娠や出産を機に実家の近くに引越した経験を見ると、全体では「妻側の両親の家の近くに移った(14.5%)」「夫側の両親の家の近くに移った(9.6%)」と24.1%の人が引越した経験があるとしている。性年代ごとの傾向は見られないが、全体としては夫側の実家の近くに引越すより、妻側の実家の近くに引越す場合が多い。

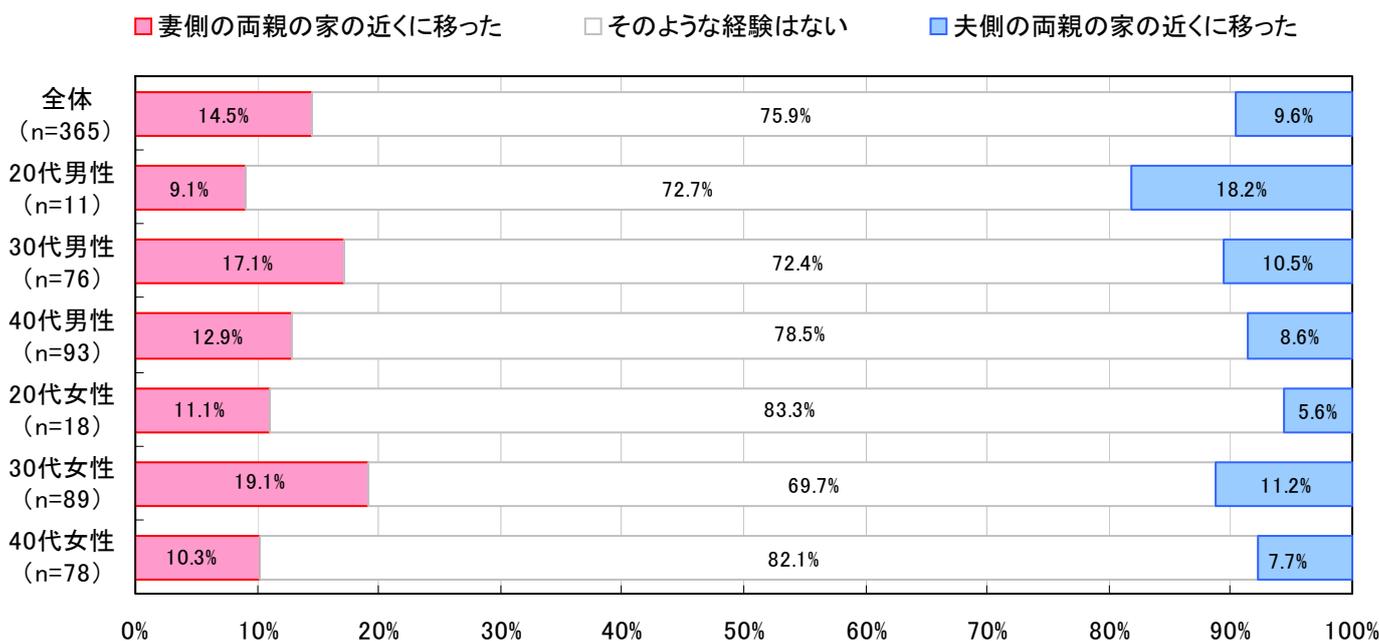
親から受けた贈り物や援助は、自分から親にお願いしたものか(性年代別)

※援助の金額換算が「0」となるサンプルと外れ値を除外している



妊娠や出産を機に実家の近くに引越した経験(性年代別)

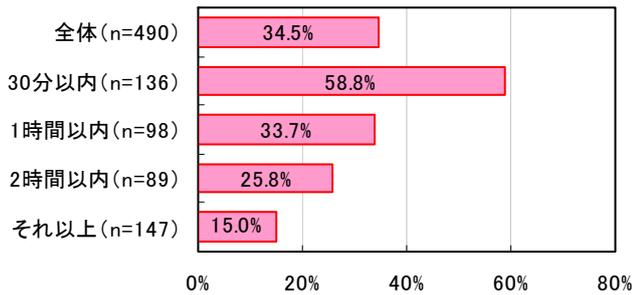
※子持ちに限定



データの総括

結果① 34.5%は自分の親から月1回以上、日用品・食料品をもらっている。

自分の親から日用品・食料品を月1回以上もらう割合(実家からの距離別)※一部抜粋



親から日用品や食料品をもらう頻度は、実家までの距離が近いほど頻繁である。もらう品目としては「お米」「野菜」「果物」「お菓子」「お惣菜」が多い。

実家に行った際に日用品や食料品をもらって持ち帰るパターンが多いが、実家までの距離が1時間以内の場合は、親が直接持ってきてくれることも多い。

これらは親の実家の近くに住む「近隣居住」のメリットのひとつである。

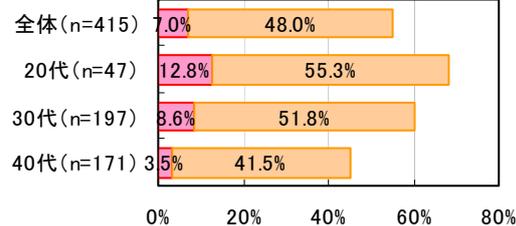
結果② 親からの贈り物・援助は年間6万円相当。若いほど親からの贈り物・援助に依存している。

最近1年間に親から受けた贈り物や援助の金額換算



親からの贈り物・援助の役立ち度※一部抜粋

■ないと生活に困る ■とても生活の役に立っている



親からの贈り物・援助は年間6万円相当であり、1ヶ月あたり5,000円程度である。

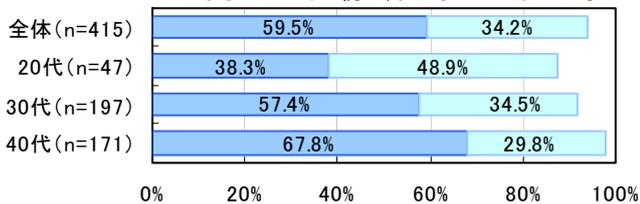
項目としては、食料品が多く、外食代金やお小遣いといったちょっとした金銭援助や、子供用品(孫世代対象の項目)が多い。

若いほど、こうした親からの贈り物・援助が生活の役に立っていると答えており、親に経済的に依存した生活をしている様子が見えがえる。

結果③ 親が自主的に贈り物・援助をしている。

親から贈り物・援助は自分からお願いしたものか※一部抜粋

■親が自主的にしてくれている
■どちらかといえば親が自主的にしてくれている



親からの贈り物・援助は、親が積極的に行っている様子が見えがえる。若いほど、自分から親にお願いする割合が高いが、大多数は「親が自主的にしてくれている」状態である。

親が世話を焼きたがり、子供もそれに甘えるという、親子関係が子供の結婚後も続いていることがわかる。

結果から推測される仮説

■第一弾のレポートでは、妻とその実家のつながりの強さを示すデータ、親子の経済的な扶養関係が結婚後も続いていることを示すデータの2つを示した。第二弾では、親子の経済的な扶養関係についてさらに掘り下げたデータとして、(1)実家までの距離が近いほど頻繁に親から日用品や食料品を受け取っていること、(2)親からの贈り物・援助の年間換算金額が6万円相当であること、(3)若い夫婦ほど親からの贈り物・援助に依存した生活をしていること、(4)そうした親からの贈り物・援助は親のほうから自主的に行っていること、が得られた。

■親は子供が結婚したあとも何かにつけ、子供のことを支援したがっており、子供もそれに甘えている状態である。家族を対象にするビジネスでは同居していなくても三世代に渡る広い意味でファミリーをマーケティング上のターゲットにすることの重要性が増している。もともとの所得水準の低さに加えて、とくに昨今の雇用不況の影響を強く受けている若年層は、親への依存を強めることが想定されるため、子供の結婚独立後の親子の経済的な扶養関係は今後さらに強まると考えられる。

■その際に重要な切り口になるのは、「親からの自主的な支援」と「妻とその実家とのつながりの強さ」であり、妻側の両親、とくに妻の母親が消費のキーパーソンになるだろう。

トピックスリサーチ

既婚者が受ける親からの援助に関する

マーケティングデータ

～援助を受けているモノと、援助額編～

発行日 2009年 9月11日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp